

平成元年7月17日

兵庫県出石郡出石町内町59

勝林寺

臨時号

お釈迦様が亡くなつたあと、その遺骨（シリヤリといいます）を、主だった弟子や王様たちが分けてもち帰り、それぞれの死体の捨て場、穢れを閉じ込めておくところ、たたりを封じ込める墓。これが身勝手な愚かな墓ではありません。仏教ではもともと火葬であります。

昔、日本では、死は「けがれ」であります。愛しい妻が死んでも、かわいい子供が亡くなつても、とにかく「死」は「けがれ」でありますから、人が死んだ限りは汚いもの恐ろしいものとして、一刻も早く私たちから遠ざけ捨ててしまはなければなりません。「ほおむる」ということばはそういう意味のことばです。穢れたもの死んだものを、そのまま身近においておくと、その穢れが私にのり移ります。祟ります。そこでなるべく穢れた死を、塩で清め、火を焚き棺を回すなどして追い払おうとしたのです。なるべく遠い、たとえば人里離れた山の奥にもつて行つて、再び現世に迷いでて来ないよう、たたつたりしないように閉じこめました。これが日本の古い墓であったのです。



墓

勝林寺寺報

国に記念塔をたてたのです。ストーバとよばれたこの記念塔は、ですから当然なるべく人の集まり易いところ身近なところにたてられました。いつでも、誰でも、そのストーバが見える、そしてお釈迦さまを偲ぶことができるようにと。亡くなつたかたも、いつも私と共にあるいつも私を見つめていてくれます。私と共にあるいつも私を見つめていてくれます。私と共にあるいつも私を見つめていてくれます。

ストーバがストーバとなりそれがまたトバ、そしてトウとなつたのです。五重の塔・三重の塔のあの塔、あれが仏教の墓です。

ストーバがストーバとなりそれがまたトバ、そしてトウとなつたのです。五重の塔・三重の塔のあの塔、あれが仏教の墓です。

さて私達、墓というものをもう一度考え直してみたいのです。

穢れ・たたりを恐れて、死人をして閉じ込めてしまふ墓がいいのか、それとも、亡くなつた今も如来様とともに、いつでもどこでも私と共にわたしを見つめていい下さる、そんな墓を私はもちたいと思うのですか、いかがでしょうか。

今年は、坊守さまの思いがけないご病気で、今日ここに、あの明るいにこやかな笑顔にお会いさせていただけないのが大変残念で、また淋しい思いでいっぱいです。昨日病院にお見舞いに参りましたら、頑張つて療養を続けていますので皆様にどうぞよろしくお伝えくださいとのことでした。

一日も早くよくなられ退院されますよう、共に念じ申したいとおもいます。

さて、仏教婦人会の活動につきましては、平素より、各地区評議員さまを中心においていろいろお力添えをいただいて盛り上げていただいておりますこと、厚くお礼申し上げます。ありがとうございます。今日は、普段わたくしの思つておりますことをお話しさせていただきて、ご挨拶にかえさせていただきとう存じます。

わたしたちは毎日たべものを食べて健康を保っていますが、人間が育てられるのは食べ物だけでなく、おみのりによってこころの健康が保たれ心が育てられていくもの。淨土真宗は、人間の生き方を教えて下さると、お聴聞をさせていたいきますが、なぜかと思わせていただいております

幸い勝林寺ご院家さまは、テレホン法話・「みのりを聞く会」をつづけて下さっています。

5800のダイヤルをまわしたり、毎月26日の「みのりを聞く会」のおみのりにお出会いさせていただくなつたびに、人

のいのちの貴さと、生きるということの深さを味わわせていただいていることでございます。

この春三月五日、姫路市龜山の本徳寺

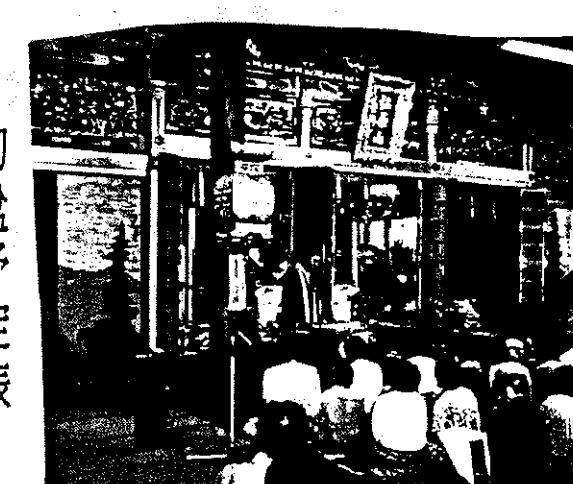
七月九日
勝林寺仏教婦人会総会
ム云巨丈あいさつ

勝林寺仏教婦人会
会長 矢根藤田子
木の命を
土の命を
人の命を

午後からは竹内先生のご法話もござります。どうぞ総会とともに、みのりある一日でありますように念じまして、ご挨拶といたします。

いのちを見つめる

で、「若婦人のつどい」が開催されまして、わたくしは元若婦人として参加させていただきましたが、子育て真っ最中の若婦人の方にこそ、おみのりにお会いしていただきたいとつくづく思いました。



初盆予定期表

今年初盆をお迎えになるお宅の、法要予定期日を次のように設定させていただきました。ご都合のわるいお宅は至急ご連絡ご相談ください。

七月二十七日 矢根 永井孝一郎氏宅

八月七日 正法寺 数森睦夫氏宅

八月十二日 坪口 中嶋英夫氏宅

八月十三日 出石 中島俊昭氏宅

八月十四日 丸中 立脇 晃氏宅

八月十五日 出石 永井角治氏宅

葬儀



六月三日

矢根 永井やゑの様

小田 文庫藤恒治様

戰沒者追悼 法要

八月八日は
毎年



數沒者名口編

敬
秋
略

谷中兼宮平大湯蔭山岸宮宮藤足宮多湯斎村田中森宮宮田稻山宮森湯平田田中坂山湯仲斎龜垣川井嶋野石口山田下嶋嶋嶋本立嶋田口藤田村島井嶋嶋中葉田嶋井口野中中嶋本田口田藤井重能

新德太春六清猛一定国辰四治春實武善儀喜謙一隆慶信章國勇金睦閏政七源健孝貞義太祐

数数数数数徳大田山衣斎谷木松児蔭平古衣坂斎閑横永水山坂数田中平山水山湯数石数湯斎石数中福
森森森森久石中田川藤垣本浦島山野田川本藤川山井島田本森中嶋野田嶋田口森田森口木田森川富
加 ひ 源 當 利

よ六み強忍さ正正新治春慶健修可真吉藤康之正弥清貞勝梅薰博重繁一柳一信甚芳太勝茂光一庫佳之好子郎つ三え幸雄一郎一一治人仁信八雄助喜一二吉雄一之夫二雄郎男信一一助夫



ご門徒一般には「勝林寺寺報」八月号をもつてご案内いたします。

代議員各位

代議員各位

山山山山兼兼兼兼兼石石石石山山山山山山山数
田田田井井井井井田田田田田田田田田田森
喜 喜 喜 喜 喜 喜 喜 喜 喜 喜 喜 喜 喜 喜 千
三敏え与輝茂清久き太輝道孝ゆ保清春清滿深鶴か亀義
朗枝い治義子野え郎枝子か子枝高雄雪子ね雄光